

仙台市みどりの基本計画2021-2030

計画上半期の振り返りと見直しの方向性について

百年の杜推進課

【仙台市みどりの基本計画2021-2030の概要】

●基本理念

百年の杜づくりで実現する新たな杜の都 ～みどりを育むひと、みどりが育むまち～

●取組みの姿勢

グリーンインフラの推進

本市の自然環境がもつ多様な機能に着目し、それを都市基盤とし活用するというグリーンインフラを、関連する行政分野が連携を強め、市民や事業者などの多様な主体との協働のもとに推進する。

●基本方針

基本方針1:みどりと共生するまち

基本方針2:みどりで選ばれるまち

基本方針3:みどりを誇りとするまち

基本方針4:みどりとともに人が育つまち

基本方針5:みどりを大切にするまち

施策
体系

重点的な取組み
(百年の杜づくり
プロジェクト)

●計画期間

令和3年度～令和12年度まで

●計画の進行管理

PDCAサイクルを採用し、毎年度各事業の進捗管理を実施するとともに、中間年度（令和7年度）には

- ・計画全体の指標 及び 5つの基本方針毎の指標 の達成状況の確認
- ・各種調査（緑の市民意識調査、緑の分布調査、緑視率調査等）
- ・審議会委員へのヒアリング

等を実施し、中間見直しを行う旨明記。

【中間見直しのフロー】

審議会委員に
いただいた
中間見直しに
向けた着眼点

指標の達成状況や
各種調査からみた
計画の中間評価

みどりに関する
新たな視点や
本市のまちづくり
の動向等

中間見直しの方向性について整理



【審議会委員意見（第97回審議会以降にいただいたご意見）】

●計画全般

- ・森記念財団発行『日本の都市性評価2024』の中で、環境分野の評価軸となっている「水辺の充実度」が都市の快適性に影響する、という視点は頷けるものがあり、仙台市でも計画内の「みどりで選ばれるまち」の項目で触れるなど、意識して良いのではないかと。
- ・これからますます過酷になっていく気象環境に対し、都市のみどりは人の命をも救うものとして強調するような表現はいかがか。
- ・**優先順位をつけた戦略的な緑地の保全について、盛り込む必要がある。**

●計画全体の指標

- ・（指標1：緑被率）亜熱帯化が進む日本にとって日影（緑陰）の存在は重要。緑被率を指標としているが、日影を生成する樹木の高さや接道部緑化の厚み（道路⇄建物までの奥行）も重視したい。
- ・（指標2：都市計画区域内の都市公園等の市民一人当たり面積）都市公園法による標準は、10㎡／人であり、維持管理を含めると現状維持でも十分では。エリアによって偏りがあるのであれば、それを解消すべき。

●方針1の指標

- ・公有地・民有地問わず、雨水流出抑制効果を数値的に示せるような指標を検討してほしい。
- ・**雨水の地下浸透量に関する目標や戦略が不明瞭**だと感じた。雨庭の整備による雨水浸透効果や、雨庭が市民の生活に直結することを示すような方針で進めていただきたい。
- ・**「何力所、何㎡整備した」だけではなく、想定数量でも構わないので、可能ならばアウトカム指標も用いた方がよい。**
- ・多自然河川づくりについて植物相の変化、生物種数の前後比較、景観の連続性等、アウトカム指標を用いていただくとよい。
- ・本来、生物多様性の向上は、仙台市内の生物種の中から目標種を選定し、目標種に対する取り組みによる実績や成果を踏まえ評価すべきなので、現状の生き物観察会等の開催回数という評価項目を改善いただきたい。

●方針2の指標

- ・仙台市全体として最適な公園として機能させていくためには、公園間の連携（役割認識や特徴をマネジメントする）があると良い。
- ・青葉山公園や西公園のプール跡地では大型遊具等を整備したほうが良い。
- ・生物多様性に関する記述が希薄であると考え、**生物多様性地域戦略との連動等により力を入れてほしい。**
- ・緑化ガイドラインでの指導によって緑化の質がどの程度高くなったかフォローアップしてほしい。
- ・優良建築物緑化認定制度の認知度の向上に努めてほしい。
- ・優良建築物緑化認定制度とグリーンインフラ助成制度の一体的な利用の推奨について検討いただきたい。

●方針3の指標

- ・歴史ファンにも自然ファンにも、インバウンドにも訴求するプレゼンテーションが有益。
- ・杜の都名木・古木巡りや「街路樹ツアー」のような市民向けのツアーで、行政の情報が共有されていないのが非常に残念であると考えていたので、検討していただきたい。
- ・**居久根の現状（数や分布）を把握し、保全・活用に関する全体的な戦略を持つと良い。**

●方針4の指標

- ・公園での機能再編について、再編により得られた市民の評価を把握すべきである。
- ・人口密度が低下した地域における公園についての統廃合なども検討すべきでは。

●方針5の指標

- ・**成果指標（公園施設改修件数）については、既に目標値に達しているので、目標を見直した方がよい。**
- ・みどりの魅力・情報発信の強化については、アウトカムの指標を設定したほうが良い。



【計画の中間評価（指標の達成状況・方針毎の取り組み状況や調査結果等）】

●計画全体の指標

参考資料1-3:P.7, 13, 16, 20, 22, 25

指 標 の 概 要		基準値(R1)	目標値(R12)	R6年度実績 (括弧書はR5実績)
指標1	市域全域の緑被率	78.4%	維持・向上	78.7%
指標2	都市計画区域内の 都市公園等の市民一人当たり面積	18.6㎡	20㎡	(18.9㎡)
指標3	百年の杜づくりに対する市民満足度	69.5%	向上	75.6%
指標4	身近なみどりに対する市民満足度	34.7%	向上	43.4%

- 計画全体の指標は、目標値の達成に向けて概ね順調に進捗している。参考資料1-3 P.10
- 百年の杜づくりに対する市民満足度は、令和5年度に開催した全国都市緑化フェアによる市民の緑化の機運の高まりを反映し、本市の施策の中で3年連続で最も高い評価を得ている。
- 身近なみどりに対する市民満足度は上昇傾向。みどりの量と質の満足度を比較すると、質の満足度が低い。参考資料1-3 P.11

●5つの基本方針ごとの指標

指 標 の 概 要		基準値(R1)	目標値(R12)	R6年度実績 (括弧書はR5実績)
方針1	公園緑地等における浸透施設整備により 雨水流出抑制が図られた面積	—	87,000㎡	(53,495㎡)
	身近な生きものの認識度(9種)	ツバメ75.2% ほか	全ての種で 現在より向上	3種で向上
方針2	新たに民間活力を導入する公園施設数	—	10年間で 4か所	(2箇所)
	仙台都心部緑化重点地区における ①緑被率・②平均緑視率	①14.2% ②31.0%	①14.3%以上 ②33%	①11.7% ②30.1%
方針3	街路樹の再生（更新路線数）	—	10路線	(0路線)
	仙台ならではのみどりを活用した (名木・古木めぐりなど) イベント開催件数	10回/年度	10回/年度以上	10回/年度以上 4年達成
方針4	身近な公園の役割が子どもを遊ばせる場所と回答する 市民の割合の増加	62.6%	現在より向上	63.8%
	コミュニティを育むみどりの市民活動団体の結成数	1,358団体	1,460団体	1,408団体
方針5	公園施設改修件数	—	延べ1,200公園	(1,644公園)
	ふるさとの杜再生プロジェクトのイベント参加者数	—	延べ2,000人	(1,526人)

- おおむね順調に推移しているが、一部の指標で遅れや予定以上の進捗がみられる。参考資料1-3 P.14
- グリーンインフラに対する認知度が向上しておらず、市民に考え方が定着していない。
- 身近な生きものの認識度が向上していない。生き物の生息環境の減少や、生き物と触れ合う機会の減少などの要因が考えられる。参考資料1-3 P.15
- 指定管理制度による公園管理運営は順調であるものの、Park-PFI制度等の民間が主体となる手法による公園管理運営の実績が停滞している。参考資料1-3 P.17
- 市街地の開発等に伴い、緑地や街路樹が減少。仙台都心部緑化重点地区における緑被率・平均緑視率が低下している。参考資料1-3 P.9, 19
- 街路樹に対する満足度は上昇傾向にあるが、都心部より住宅地の満足度が低い傾向。車両等での通行者と、沿道・近隣住民との間で、街路樹に対する意識が異なると推察される。参考資料1-3 P.21
- みどりに関する市民活動団体の結成数は着実に増加し、コミュニティを育むための受け皿はあるものの、市民の中で団体の存在が認識されていない。参考資料1-3 P.24

【中間評価からみた課題の抽出】

- ・都市緑地の保全や都市緑化の推進等，生物多様性の確保に資する取組みのさらなる推進が必要
- ・市民に対して機能・効果が見える形でグリーンインフラをさらに推進する必要
- ・都心部において沿道の建築物や公共空間の緑化を一層推進するほか，本市のみどりの代表格である街路樹や保存樹林等の質の向上等，質の高いみどりの創出が必要
- ・多様な主体との協働・連携による公園管理運営やみどりの活動を活性化させる仕組みを整備する必要

【みどりに関する新たな視点・本市のまちづくりの動向】

参考資料1-3 P.26～P.31

●都市緑地法の改正（令和6年11月施行）

まちづくりGXやネイチャーポジティブの考え方を背景に，**気候変動**への対応，生物多様性確保，幸福度（Well being）の向上等の課題解決に向けて緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針（緑の基本方針）を国が策定した。市町村が策定する緑の基本計画は，本方針に基づいて作成することとなる。

●杜の都環境プラン（令和6年3月改定）

国の温室効果ガス削減目標が引き上げられたことなどを踏まえ，温室効果額削減目標の見直しや，目標の達成に向けた施策の拡充等を行った。また，令和7年度に計画の中間評価を行う。

●仙台市ダイバーシティ推進指針（令和7年3月策定）

市民と行政の連携のもと，**多様性**を尊重した共生のまちづくりに取り組んできた背景を踏まえ策定。さまざまな「ちがい」を受容してきた歴史や風土，市民協働といった都市個性を土台とし，さらに発展させながら，誰もが安全・安心に暮らし，自分らしく活躍できるまちづくりを進めている。

●せんだいこども若者プラン（令和7年3月策定）

「**こども**・若者が自分らしく幸せに生きられるまち」「みんなで支える**子育て**が楽しいまち」の考え方でまちづくりを進める。基本施策に「多様な体験・学習機会の充実」「遊びの環境の充実」を盛り込む。

●仙台市観光戦略2027 ～Into a New Era～（令和7年3月策定）

観光を基軸とした仙台の成長を目指す。「次代へつなぐ青葉山エリアの価値の深化」，「Sendai Urban Resortの推進」等，本市のみどりを活用するプロジェクトを推進する。

【計画の見直しの方向性（案）】

1. 上位計画である仙台市基本計画の基本理念「挑戦を続ける, 新たな杜の都 ～The Greenest City SENDAI～」を実現させるため, 本計画の基本理念, 基本方針, 取組みの姿勢は継続する。
2. みどりの持つ機能を, 様々な分野の課題解決に活用し, 本市のみどりの価値を高めるため, 「ダイバーシティ」, 「脱炭素(気候変動)」, 「こども」, 「観光」の視点を補足・強化し, 施策の柱および施策に反映させる。
3. ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等に資する 都市緑地の計画的保全と, 緑地の機能を最大限に発揮させる管理・利活用を進めるための方針等の検討に取り組む。
4. 基本方針ごとの指標のうち, 既に 目標値に到達した指標については目標値を再設定するほか, 上半期の実績や市民意識調査などの結果から得られた 課題を踏まえ, 指標の見直しを行う。

〈施策体系〉

脱炭素（気候変動）の視点を導入

1. みどりを生かした防災・減災を進める

- 1) 自然災害等を軽減するみどりの保全・育成
- 2) 災害時の避難場所や避難路となるみどりの充実

2. みどりにより、健全な水循環を維持・増進する

- 1) 市街地等の浸透力・保水力の向上
- 2) 樹林地・農地の適正な保全
- 3) 河川環境の保全

3. 都市のみどりをつなぎ、豊かな生態系を育む

- 1) 生物の生息地となる樹林地、公園・緑地等の保全・充実
- 2) 郷土種を利用した緑化、みどりのネットワークの形成

4. みどりを資源として循環させる

- 1) みどりの有効活用、環境負荷の小さい資材の活用

5. みどりで人、企業を惹きつける **観光の視点を強化**

- 1) 都心部のシンボル並木の磨き上げによる都市ブランドの向上
- 2) 老朽化したビルの建替えなどを契機とした質の高い緑化空間の創出

6. みんながみどりを享受できるまちをつくる

- 1) あらゆる人々が集い、楽しみ、活動できるような公園、緑地の整備
- 2) 人々の交流を促すみどりの空間形成

7. 杜の都にふさわしいみどりを充実させる

- 1) 市街地を囲む緑地や丘陵部の保全
- 2) 風格のある杜の都の景観づくり **観光の視点を強化**

8. 歴史と文化の香るみどりを守り、継承する

- 1) 文化資源と調和するみどりの保全と活用
- 2) 歴史あるみどりの保全と活用

ダイバーシティの視点を導入・こどもの視点を強化

9. 暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる

- 1) 地域ごとの特色を踏まえた公園緑地等の整備
- 2) 住宅地や公共施設、民間施設等におけるみどりの充実

10. みどりにより健やかな心身を育む

- 1) みどりによる子どもの遊び環境・学び環境の充実
- 2) みどりを介したコミュニティの醸成
- 3) みどりを生かした健康づくりの推進

（仮称）公園愛護協会活動推進プロジェクト、未来の杜
せんだいネット「ハナミドリエ」による中間支援の位置づけを検討

11. みどりの持続可能な管理体制を構築する

- 1) 様々なみどりの施設マネジメントによる効率的な維持管理
- 2) 多様な主体・多様な手法による参加の促進
- 3) みどりの団体やみどりの人材の育成

12. 悠久の杜の都を発信する

- 1) みどりのイベント充実と開催支援
- 2) 杜の都のみどりの魅力発信

〈重点的な取組み〉

■みどりによる雨水対策の推進

法や条例に基づく緑地保全制度の運用、市有林の造林育林、公園や道路などへの雨庭等の整備に取り組み、浸水被害の軽減に努めます。

■生態系を育むみどりの保全・創出

法や条例等に基づく緑地保全制度の運用、多自然川づくりや仙台市生物多様性地域戦略を推進し、生態系サービスの基盤を充実させます。

**戦略的な緑地保全と効果的な管理・
利活用の方針の策定に向けた取り組み
を追加**

**広瀬川大橋周辺の水辺利活用事業を
位置づけることを検討**

■都心部の活力・にぎわいの創出

街路樹のある公共空間の活用によりにぎわいを創出するとともに、公園を活用したエリアマネジメントの推進等により新しいビジネスの機会創出を促進します。

■都心部の建築物等における質の高い緑化の創出

建築物等緑化ガイドラインの運用や建築物等緑化認定制度の導入により質の高い緑化を促進し、都市ブランドや建築物等の価値の向上を図ります。

■街路樹による風格ある景観づくり

街路樹の整備や更新、管理などの総合的な計画の作成・運用により、歩いてみたくなる、美しい街路樹空間を創出します。

■仙台ならではのみどりの活用

名木・古木、彫刻めぐりや居久根、貞山運河など地域資源の利活用を進め、地域への誇りと愛着を醸成します。

**青葉山エリアのみどりや、秋保大滝植物園等を活用した
観光に資する施策を検討**

■子どもの遊び・学び環境の充実

公園など子どもの遊び環境の充実、環境教育・学習の推進、プレーパークの拡充等により、子どもが豊かな人間性や社会性を身に付ける可能性を広げます。

遊びの拠点・日常の遊び場・多様な体験づくりの取り組みを検討

■みどりを活用したコミュニティ、地域づくりの推進

コミュニティガーデンづくりや公園緑地を活用したウォーキング等の健康づくり、みどりに関する各活動団体の支援等により、地域全体で支えあう環境づくりを進めます。

■施設マネジメントの推進

老朽化した公園施設の効率的な維持管理による長寿命化、街路樹の整備や更新、管理などの総合的な計画の作成・運用の推進により、安全・安心な利用空間を創出します。

■普及啓発の強化

全国都市緑化仙台フェアの開催による国内外に新たな杜の都の発信やふるさとの杜再生プロジェクトのイベント開催等により、緑を楽しむ機会を増やします。



上半期の実績や市民意識調査の結果などから得られた課題を踏まえ、指標の見直しや目標値の再設定を行う

●5つの基本方針ごとの指標(赤字箇所について、見直しを図る)

指 標 の 概 要		目標値(R12)
方針1	公園緑地等における浸透施設整備により雨水流出抑制が図られた面積	87,000㎡
	身近な生きものの認識度(9種)	全ての種で 現在より向上
方針2	新たに民間活力を導入する公園施設数	10年間で4か所
	仙台都心部緑化重点地区における①緑被率・②平均緑視率	①14.3%以上 ②33%
方針3	街路樹の再生(更新路線数)	10路線
	仙台ならではのみどりを活用したイベント(名木・古木めぐりなど)開催件数	10回/年度以上
方針4	身近な公園の役割が子どもを遊ばせる場所と回答する市民の割合の増加	現在より向上
	コミュニティを育むみどりの市民活動団体の結成数	1,460団体
方針5	公園施設改修件数	延べ1,200公園
	ふるさとの杜再生プロジェクトのイベント開催件数	延べ2,000人